

平成26年度公共事業再評価諮問地区「継続」理由書等

(課名：伊万里市土木管理課)

<p>事業名 (路河川等名)</p>	<p>総合流域防災事業(煤屋川)</p>
<p>継続理由</p>	<p>地域住民の生活河川である煤屋川は、蛇行した狭小な河川断面であったため、河川の流下能力不足が原因で、古くから台風、豪雨時には頻りに氾濫し、農地はもとより家屋への浸水被害をもたらしてきた。</p> <p>このため、河道拡幅、築堤等を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ってきた。</p> <p>これまでの事業は順調に進捗し、平成25年度末までの進捗率は約76%(事業費ベース)となっている。</p> <p>地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。</p> <p>地域住民の安心・安全を確保するためには当事業の継続が必要である。</p>
<p>B/Cの 算出方法</p>	<p>総便益(B)は治水施設の整備による整備水準以下の年平均被害軽減額を対象期間分足したもの。</p> <p>総費用(C)は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分足したもの。</p> <p>(※対象期間=整備期間+施設完成後50年間。)</p> <p>総便益額(現在価値化した総便益) B = 776 百万円</p> <p>総費用額(現在価値化した総費用) C = 640 百万円</p> <p>$B/C = 776 / 640 = 1.21$ ※費用対効果</p>
<p>備考</p>	

平成 26 年度再評価対象事業 (事業採択後、一定期間 (5~10年) が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業案)	備考
16	煤屋川 総合流域防災 事業 事業主体：伊万里市 事業地：伊万里市	流路是正、河道拡幅、狭窄部解消、流下阻害となる構造物の改築を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。	全体事業費：C=5.1 億円 改修延長：L=840m 工期：H17～H28 計画流量 20m ³ /s 計画治水安全度 1/10 事業内容：築堤、掘削 護岸 橋梁 5基 堰 2基	下流から中流約560mの河川改修を完了している。 改修L=560m完成 橋梁3基完成 (H25末進捗率 76%) (年平均進捗率 8%) (主要残工事) 掘削、築堤、護岸 橋梁2基、堰2基	(過去の災害実績) ・H14.9 洪水 浸水戸数 床上 0戸 床下 8戸 ・H18.9 洪水 浸水戸数 床上 1戸 床下 7戸 (地域の状況) 流域内において社会経済情勢等の大きな変化はない。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果 (B/C) を算出した。 総便益 (農作物被害・公共土木施設等災害被害等軽減額) B= 776 百万円 総費用 C= 640 百万円 費用対効果 B/C=1.21	(コスト削減策) 護岸の裏込材や堤防天端の砕石散布に再生材を積極的に利用する。	事業採択後10年が経過	平成14年および平成18年等の洪水被害を軽減するために、河道拡幅、築堤等を行い、治水安全度を向上させ、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。	

